

《スーパー耐久シリーズ2017 第1戦 もてぎ200×2Races レポート》

「#38 muta Racing TWS IS350」

2016年シリーズチャンピオンとしてシリーズ開幕戦を勝利

2016年のシリーズチャンピオンとして臨んだ初戦、勝利を手にすることができた「#38 muta Racing TWS IS350」。しかし、シャシー変更後の新しい車輻で十分にテストをする時間がとれなかったことから、大きな重圧を抱えたまま、スーパー耐久シリーズ2017の開幕戦に挑むこととなりました。

ST3参戦 9台
予選結果 1位
決勝結果 1位

フリー走行では、翌日の予選で雨が降る事も想定したセッティングを行いました。

予選ではBドライバー（阪口選手）セッションの時点でもコースはまだ乾いていませんでしたが、タイヤを早めに発熱させておくためにスリックタイヤを選択。内圧を少し高めに設定しコースイン。

セッション序盤では無理をせず、ピットインする1、2周前だけ少しペースを上げてから内圧をドライ正規の値まで下げ、計測1周分だけアタックを掛けてターゲットタイムを出す事が出来たので、リスクを最小限まで削ったとてもスムーズな運びとなりました。

その結果、ライバルチームに1.5秒以上の大差を付けてポールポジションを獲得。決勝では昨年同様、阪口選手がスタートからトップを譲りませんでした。そして、同じく当チームからエントリーしている#39 ADVICS TRACY RC350の前嶋選手に30秒の大差をつけた32周目に堀田選手と交代。満タン給油時はドライバー交代のみ、給油量が少なめの時は、負担が大きく掛かる左側のタイヤのみの交換を行い、ピットストップ時のタイムロスを最小限に抑える戦略を採用しました。

堀田選手はドライバー交代直後、燃料が満タンでタイヤも無交換での出走となり戸惑いを隠しきれませんでした。フリー走行時に阪口選手が決めた乗りやすいセットアップが効果を発揮、周回を重ねる度に順調にペースアップする事が出来ました。終盤になってもそのペースの衰えることなく、勝利に結びつきました。



《スーパー耐久シリーズ2017 第1戦 もてぎ200×2Races レポート》

「#39 ADVICS TRACY RC350」

オフシーズンの成果でシリーズ開幕戦2位を獲得

2015年に製作、2016年からスポット参戦を始めたRC350。2017年の年間エントリーに向けたオフシーズン期間には軽量化、サスペンションとブレーキシステムのセットアップとテストに力を入れました。

軽量化に関してはドライカーボンドアを製作、片側20kg、ドア交換のみで合計40kgの軽量化を実現し、テストでもドライバーがその恩恵を得ることができると確信。

サスペンションに関しては、以前から使用しているTraceダンパーの仕様変更、そして現場でTraceのサポートを受けながらダンパーテストを行い、じっくりとサスペンションのセットアップを見つめ直し、乗りやすさとラップタイムを確実に向上させました。

今年から大手ブレーキメーカーである株式会社アドヴィックス(ADVICS CO.,LTD.)様に、当車両のメインスポンサーとなって頂き、#39 ADVICS TRACY RC350として年間エントリーを実現することができました。

この株式会社アドヴィックス様とのパートナーシップにより、オフシーズン期間には、ブレーキパッドとローターの見直し、ADVICS製の新しいブレーキシステムを導入してのテストを重ね、ブレーキング性能の向上に取り組んできました。

その成果として、去年とは見違える程に速くなったRC350。GT3出場経験もあるドライバー前嶋秀司も加わり、予選では2位を獲得しました。決勝では昨年度でチャンピオンである

#38 muta Racing TWS IS350に接近するシーンもありましたが、最終的には2位を獲得。TRACY SPORTSが1-2フィニッシュを成し遂げました。

ST3参戦 9台
予選結果 2位
決勝結果 2位



ADVICS

muta

YOKOHAMA

MOTUL

Winmax

HEARTFUL SQUARE

Trace

ings

DRL

TWS

SARD

BRIDE

BILION

OSGIKEN

AKILAND

TRACY SPORTS

《スーパー耐久シリーズ2017 第1戦 もてぎ200×2Races レポート》

「#40 ゴーゴーガレージ TRACY 86 SSR ings」

リタイアした悔しさを力に、第2戦へさらなる挑戦を続ける

ST-4クラスで、最も参戦台数が多い86/BRZ。今年は同車両争いの中で良い結果を残すべく開幕戦に挑みました。チームとして自信を持って臨んだ第1戦では、フリー走行時に重大なトラブルに見舞われました。

ST3参戦 16台
予選結果 計測できず
決勝結果 リタイア

一旦は、レースの出場すら諦めかけましたが、他の参加チームに手助けをして頂きながらメカニックが徹夜で復旧作業を行い、何とか予選セッションのラスト数分で出走できました。メカニックは素晴らしい仕事を成し遂げてくれましたが、多数のパーツ交換を余儀なくされていたため、電装デバイスが上手く機能しませんでした。無理な走行は他チームの迷惑になるため、タイム計測を行う事なく予選を諦めました。決勝は嘆願書を認めて頂き、最後尾スタートとなりました。



やっとの思いでこぎつけた決勝のグリッド。せめて1ポイントでも獲得するためにチーム全員で必死の追い上げを試みましたが、吉本選手走行中にパワーダウン発生と報告が入ったためピットインを行い修理しましたが、この度はリタイアの決断を致しました。

結果に結びつかなかった開幕戦となりましたが、第2戦では挽回すべくチーム一丸となって第2戦、東北の地スポーツランド菅生を目指します。

